

模型飛行機クラブ会報 Launchers 2006年1/6号

●2005年記録会は2月19日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

●2005年記録会は3月19日(日)大宮田んぼ(9:00~12:00)です!

21世紀になってから6年が過ぎ、昨年から人口減少が始まりました。とうに予測されていた事ですがいざ始まってみると新聞が驚いています。何なのよ……。新年の対談等を読むと、年を取るとヒマジンが増えるので「65才まで働け」等勝手な事を言っていますが、それはヒコーキをやらない人の話。

人間相当早くから自分のやる事はキメテおこななくっちゃーと思います。60才近くになってからでは遅いって……。模型ヒコーキ屋は減少中なので誰でもカンゲイですう。。。。。。。

昨年は、日本から始めてFF界からチャンピオンが出て嬉しいかぎりでした。欧米と違って田んぼを走るFFフライヤーでも勝てることを証明した事は、何はともあれ素晴らしいことでした。

今年から国際級競技規定の滞空時間が少し変更になり、よりやりやすくなると思います。ところで今年はFF世界選が無く黙々と練習をする年、虎視眈々と構想を練る年、そして新工夫なり新機軸なり実現に向かってひた走る年となるのでしょうか。

HLGもドングリの背比べから脱出する方法があるのか、そんなことはドダイ無理なことなのか。HLGの競技は機体やガタイの大きさには無差別です。幸いにも日本では外国と違って身体を見ただけでガックリ来るほどのガタイ差が無く、年齢差でも、これまで文句が出ていません。しかし、今後はどうでしょうか。そうでなくても日頃は30才と60才が戦うの図で、まだまだ60才が勝つのはどうなのでしょうかね。。。。。。。そんなこと許すな、若手よ、ガンバレ」と年寄りからかけ声がかかりそう。ハハへ

* 新年の会長挨拶

* 会計報告と会費納入のお願い

* 2006年イベント予定表

記録会報告	①2005年12月記録会/HLG	②2005年12月記録会/PLG、
	③2006年1月記録会/HLG	④2006年1月記録会/PLG
競技会報告	⑤湘南大会報告	
お知らせ	⑥きしめん大会案内	⑦関西FF大会案内
	⑧選手会大会案内	⑨新潟国際級大会
FFサロン	⑩木引敬一さんの思い出・高田	⑪小型ゴム動力機用電動ワインダー
	⑫UHLGの高度測定	⑬FF用小物の製作
雑談天国	⑭暖房衣類の紹介	⑮朝食の準備
編集後記	⑭	

★ 新年の会長挨拶

新年にあたって

相沢泰男

2006年、今年もランチャーズ記録会で楽しみましょう! HLGの大型化に伴い大型、小型の2区分化も取りざたされます。高性能化したHLG/PLGが更にどんな進化を遂げるか楽しみです。か弱い(くない人もいますが!)自分の力とか、わずかなゴムの力で飛ぶ飛行機の魅力は尽きません。大いに楽しむうではありませんか。

昨年暮れ武田さん、新年早々木引さんの訃報が届きました。お二人ともランチャーズのメンバーではありませんが多くの場面でお付き合いがありました。夏の合宿にはよく参加していただき、毎年楽しみだとお話されていたことがついこの間のように思い起こされます。 合掌)

★ ランチャーズ05年度会計報告と会費納入のお願い

平尾

会計は昨年無事黒字で終わることが出来ました。会員皆様から心から感謝します。会費のほとんどは、会報作成と郵送料に使っていますので、少しでも節約出来る方法があれば、取り入れたいと思います。又、世界選のTシャツが思ったより売れず残った物は賞品になりました。残念! それと、昨年に引き続き実施した

「こども・もけいひこうき教室」は若干の赤字がでましたが、残った教材（模型飛行機）は、これも記録会の賞品にしたいと思います。今年もよろしく。

収 入	(単位円)	
	会 費	41名×2,000円=84,000
	カーボンパイプ売上	1,900
	模型飛行機教室(300*14)	4,200
	合宿代残金	6,572
	前年度繰越し	13,901
	計	108,573円
支 出	送料(6回分)	37,440
	封筒・ラベル等	24,561
	コピー代金	1,400
	カップ購入代金	4,725
	模型飛行機代(子供用40機他)	8,088
	Tシャツ購入費	12,500
	計	88,714円
繰越金		19,859円

★ 2006年模型飛行機・イベント予定(2月以降・関東中心)

開催日時	競技名称及び競技種目	主 催	開 催 場 所
2月26日(日)	きしめん大会(中部春期競技会) F1J,HLG,小型混合級	CFFC	鈴鹿・楠田んぼ
3月12日(日)	関西FF国際級競技会 F1A,B,C	関西FF連合	滋賀県大中の湖
3月19日(日)	大宮大会 F1GHJ,HLG,国内級	東京選手会	埼玉県大宮田んぼ
4月8、9日(土日)	国際級競技会新潟大会 F1A,B,C	JMA	新潟県白根
6月 4日(日)	平城京ライトプレーン大会 HLG,ライトプレーン,ミニカー	KFC	平城京跡公園
8月5、6日(土日)	合宿研修会 夏FFが飛ばせる	ランチャーズ	新潟県白根
8月19日(土)	模型航空シンポジウム 模型飛行機研究発表会	JMA	新橋・航空会館
9月24日(日)	まったけ大会 F1GHJ,HLG,国内級	CFFC	鈴鹿・楠田んぼ
11月3~5日(金~日)	FF日本選手権競技会 F1A,B,C	JMA	千葉県万歳田んぼ
12月 3日(日)	関西FF国内級競技会 F1GHJ,国内級、HLG	KFC	滋賀県大中の湖
12月10日(日)	栃木大会 オルト・タイマー、スケール、ライトプレーン、HLG	TSF	栃木県小山市鏡
ランチャーズ記録会	毎月第3日曜日 主催・ランチャーズ		開催場所・大宮田んぼ、瀬谷他、HLG,PLG他

◆2005年12記録会の結果 (HLG/CLG)

12月HLG記録会報告

相沢・平尾・・・・①

コンディションに恵まれ好成績が出る中、常勝春山さんは今日は不調でした。フライオフが見もので、これまた常連井村さんが早々に離脱しまう波乱となり、吉敷対宮辺の戦いはフライオフ3ラウンド3分マックスの戦いまでもつれ、吉敷さんが3分マックスをものにして優勝！惜しくも敗れた宮辺さんも戦い終わって「満足した！」の一言がこの日をすべて物語っているようでした。1年収めの記録会にふさわしいものでした。----- (相沢)

12月18日が強風で延期となり25日に実施しました。参加者はやや少なかったようですが、熾烈な戦いとなったようです。宮辺選手がランチャーズの戦いの最後まで残ったのは、多分初めてだろうと思います。彼はT-HLG (東京ハンドランチクラブ) の元メンバーで、この日の参加者の中ではHLG最古参です。彼は30年ほど昔は伝説の「黒川」と首位を争っていました。復活なったか??

優勝した吉敷選手と握手をすると、痩せているので手に骨が刺さりそうですが、彼のヒコーキも作り手に似て飛ぶ為のエキスのみで出来ている感じです。又、勝っちゃったとは飛ぶんですね……。井村選手は、本来のエグさがとれて大人になったのかな、まさか???

3位以下、最近肩のイイ選手が増えて、女神が誰かにウインクをするとその選手が勝という実力僅差の競技会になっています。女神はやはり若い方がイイのかな。。悲しいな、サッチャン。

HLG記録12月25日大宮たんぼ、晴、気温5°C、北風0~2m 60秒MAX、10投中7投の合計

	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	F3	総計	
1	吉敷 潔	60	60	60	60	60	43	60	55	58	60	420	90	120	180	810	U
2	宮辺	60	43	60	60	43	37	60	60	60	60	420	90	120	80	710	U
3	井村真三	60	60	60	58	60	60	60	60			420	65			485	
4	菅野俊行	40	60	60	44	60	57	60	60	60	52	417				417	
4	寺田	60	32	60	60	60	41	47	60	60	57	417				417	
6	相澤泰男	28	60	60	60	52	60	60	55	60	46	415				415	
7	石井 満	58	60	60	59	60	56	60	43	44	35	413				413	U
7	三田	41	60	60	59	54	60	38	60	29	60	413				413	U
9	木口雅之	45	60	51	47	60	60	37	60	60	51	402				402	
10	春山清夫	49	45	49	60	60	60	44	52	60	60	401				401	U
11	池田 昇	60	0	28	0	42	60	60	60	51	59	392				392	
12	斉藤パ	49	60	36	60	40	31	60	31	60	60	389				389	U
13	小川	45	45	41	48	60	37	43	60	60	60	378				378	
14	吉田利徳	52	52	59	44	10	44	10	60	48	58	373				373	
15	三俣	41	50	38	41	40	33	60	60	32	36	330				330	
16	石井明里	13	23	17	23	4	20	9	23	200	14	320				320	
17	大八木	51	43	39	55	25	24	6				243				243	

12月PLG記録会報告

河田・平尾・・・・②

2回のフライオフを制した地元の篠塚さんが2度目の優勝でした。5投5MAXの河田が2位、3位が4MAX+57秒の小嶋さん、勝山さんが無尾翼機で腕を上げてきました。なお、2nd F/Oで篠原さんが7分36秒上空視界没でした。

嬉しい事に、最近倉田さん、吉岡さん、勝山さんとFFの古参モデラーが記録会に参加してくれています。パチンコは小型のわりに良く飛ぶし、ケッコウ難しいのでやり甲斐があると思います。しかし、パチンコにはパチンコ屋の誇りがあるので、簡単に新参者に負けるようではランチャーズといえませんが！当分はオカマ (後ろ専門) にしておきましょう。

PLG記録 12月25日大宮たんぼ、晴、気温5°C、北風0~2m 60秒MAX、10投中7投の合計

	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	F3	総計	
1	篠原嘉男	60	56	60	60	60	8	11	60			300	90	120		510	
2	河田 健	60	60	60	60	60	60					300	90	117		507	
3	小嶋	60	48	60	44	60	45	60	41	57	55	297				297	
4	倉田泰蔵	28	60	38	29	44	33	60	40	50	56	270				270	
5	勝山 彊	36	37	60	47	28	47	19	27	33	31	227				227	

◆2006年1月記録会の結果 (HLG/CLG)

1月HLG記録会報告

平尾・・・③

1月は最も日の出が遅い時期で朝が暗い。こういう時は早朝家を出るのが辛いものです。辛いにもこの日の気温は高い方で、日中14度ぐらいまで上がりました。予報で風があるとの事でしたが、早朝から5～7メートルの北風、しだいにおさまってきたものの60秒でほぼ南側の土手まで飛ぶ事を覚悟しなければなりません。

競技開始直後は「ドウスル」という雰囲気でしたが、ランチャーズ記録会はこの程度の風では常に実施です。気象条件が悪いからといって止めていると、月例会なるものはいずれ消滅します。ランチャーズが25年も続いているのは、どんな条件でも毎回実施する勇気があるからなのです。但し、1回飛ばすと回収に結構時間がかかるので、発航には相当の決心がいりますが・・・。

さて、この日は風があるので当然ながらサーマル読みが難しく、しかも発航のタイミングが短い。

こういう日は数機が一斉にサーマル上昇とはいかず、記録も伸びずフライオフは無しでした。飛びぐわいを見ていると、よほど自立安定の良い機体でないとチョットした気流の乱れでハタかれます。

この日多かったのは、高度も充分、しかも順調に滑空に入ってから2旋回目にスパイラルで接地というパターンでした。翼端投げ機のみならず、野球投げも同様の結果ですから、強風用のうんと自立安定良い機体が必要です。昔は高速滑空の石のように重いHLGを強風用に使っていましたが、最近が良いバルサが普及して軽く仕上がるので、機速が遅く乱気流から逃げられないのです。

優勝は吉田選手で記録も392秒、1回平均56秒のタイムは立派なものです。2位はやはり野球投げの石山選手、風の速度が加算されて高度がすごかった。記録は368秒、平均52秒とこれも立派です。風の日はどうしても野球投げが有利です。しかし、春山選手の翼端投げの機体の完成度の高さはさすがで3位、記録は2位と1秒差の367秒。風が強い時も上手に投げていました。

最近順位上昇中の斉藤パパは、手抜き6投で296秒をたたき出して4位、この原因は機体の自立安定の良さの一言です。5位は強肩？木口選手、もう少し投げが決まってくれば優勝確定ですが・・・。「いやいや、HLGはそんな、あまいもんやないて・・・」と井村選手が言いそうだが、言った本人は体力温存の為に、この日は計時に徹して・・・若いのにイイのかね。6位には1年半ぶりに登場の梅津選手、日曜が休みでないのを、この日は特別休業にしての参加とか、誉めるべきか、心配するべきか・・・。7位も野球投げの寺田選手、この人も投げがねえ・・・。そう簡単に上達しては古参が泣くけど。8位には肩が治った？池田選手、最近美声が出ないがどうしたの。

ここまです翼端投げは2人のみ、と言う事は風の日には野球投げで決まりです。その他では野中選手、飛んでいるのを見ると安定しているのだが1発もマックス出ず、この日はヒューストンに苦しんでました。平林兄弟は何故か苦戦、野球投げの小型機なので、強風用の投げ方に変えればOKではと思うが。唯一の少年・池田真之介君は、さすがに身体が柔らかい。しなるからだが羨ましい。ミルミル上手くなのでは。しかし、受験等でミルミル居なくなるかも・・・。淋しいな、タツちゃん

1月HLG記録 1月15日大宮田んぼ 晴 10度 北の風4～7m/s 60秒MAX 7/10投

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	備考
1	吉 田	09	39	60	49	60	56	46	47	60	60	392			392	
2	石 山	53	60	29	43	53	60	38	37	60	39	368			368	
3	春 山	60	46	54	24	46	60	14	53	34	48	367			367	U
4	斉藤パ	60	36	45	35	60	60					296			296	U
5	木 口	42	22	25	48	05	28	28	60	60	40	291			291	
6	梅 津	42	36	21	0	29	51	58	49			286			286	
7	寺 田	37	37	46	39	32	30	06	30	22	60	281			281	

8	池田	60	16	60	31	60	48					275			275	
9	平尾	60	13	56	17	41	60	09	06	06	13	256			256	U
10	野中	06	41	20	25	04	46	22	30	42	46	252			252	U
11	平林幸	09	30	04	05	60	18	53	23	25	22	231			231	
12	平林助	24	33	17	29	27	23	56	07	25	30	224			224	
13	池田真	32	23	13	18	36	25	23	22			179			179	J

注：Uは翼端投げ、Jはジュニアを示す

1月PLG記録会報告・

河田、平尾・・・④

風が強かったせいか3人しか集まりませんでした。風が少し弱まって打ち上げを開始しましたが、機体の回収に時間がかかり、2～3投でタイムアップとなり、1位は石引さんでした。風に弱いPHLGを身にしてみても感じました。

この日はランチャーズ以外では、地元・田岡さんと井沢さんのみと寂しい。しかもこの2人は1回も飛ばさず。その車を遠目に見ながら、ランチャーズは黙々と飛ばしてました。しかし、PLGは小さくて、いっぺん飛ばすと着地点が解りにくいので帰ってこない。HLGでもナカナカ見つからないので、PHLGはまるで見えません。付近の田んぼをウロウロとさまよう事しばし。自転車による回収は行きはヨイヨイだが、帰りは風が強くて、たまらず降りて押す有様。日差しもあるので11時過ぎには暑いぐらいでした。自宅に帰ってからも、疲労と軽い脱水症状でビールが旨い。

1月PLG記録 1月15日大宮田んぼ 晴 10度 北の風4～7m/s 60秒MAX 5/10投かけ

順位	選手名	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	合計	F1	F2	総計	備考
1	石引	57	47	35								139			139	
2	河田	60	28									88			88	
3	篠原	56	05									61			61	

◆ 2006年湘南大会報告

・・・⑥

早朝、大宮田んぼに着くと富士山がクッキリ、これは風かと思ったが取り越し苦労でした。今年は昨年と違って早朝は無風、昼頃にはやや風が吹いたものの気象条件は最高でした。しかし、今年の寒さは27年ぶりとのことで、そのせいか参加者はやや少なめで、グライダー、ゴムはそこそこの参加者ながら、エンジンは3名とギリギリで成立しました。HLGは今年から紙の部門も追加されにもかかわらず、大阪・名古屋から各1名と気張ってくれたものの例年よりは少なめでした。

10年程前までは新春まで稲株が残ったままでしたが、地球温暖化の為に田植えもドンドン早くなって、それにとまって、耕すのも早くなりました。これは模型ヒコーキにとっては、環境悪化です。

その為に、もうあきらめているとは言え大宮田んぼの表面はカチカチで、機体が悪手な落ち方をするとどこかやられます。特にHLGは投げに失敗すると翼の前縁がザックリやられてガックリです。

この冬の寒さで、今年の田植えはどうなるのでしょうか。昔のように5月連休まで飛ばせると最高なのですが・・・。

* R級、F1G・ゴム

早朝は風がなかったので、ゴムにとっては好条件の筈ですが、今回は古参の倉田、勝山選手の古F1Gのみが、オールマックスと予想外？でやれました。YSF中心の、F1Gから始めた選手達の参加者は多いものの、ひと頃の様な熱気ムンムンがなくなってきたのは倦怠期か。記録を見るとスーパーマックスが1人も取れなかったのが原因かと思えます。滞空時間最長の坂巻選手で14秒落ち、ここでガックリ来たのでは。スーパーマックスは1ラウンドでも落とすと稼いだタイムが減らされるので、どうも合理的でない。FAIでは今年からスーパーマックス廃止には賛成です。

遠くで見ているとケッコウヨタヨタ上昇の機体が見え、さすがはR級、高速上昇の倉田機が目立っていました。Gは過度のロングスパン化と、プロペラが合っていないのではと思います。ま・模型は好きな事をやればよいので、人好きずきで良いのですが。しかし、勝つのはやはり難しい事です。

もう一つ考えられる事は、ゴムの性能です。そろそろタンIIが無くなる頃なので、この辺りが響いたのかもと・・・。しかし、昨年のタン・スポーツはナカナカ良い物だと思いますが、どうですか。又、参加者も多少の変動があります。今年はトロトロ上昇が目立ちましたが、今回は不参加の出口、前田、浅沼の各選手

はいずれもオーソドックスなスルスル上昇です。又、かつて参加していた名古屋勢は、結構な高速上昇でした。さて、来年はどう変わるでしょうか。

R、F1G

No.	氏名	R1	R2	R3	R4	R5			Fo1	合計
1	倉田	120(84)	120	120	120	120				684
2	勝山	120(16)	120	120	120	120				616
3	中野	120(31)	120	120	91	120				571
4	島崎	120(77)	120	120	120	83				563
5	海老原	120(62)	120	102	120	97				559
6	渡辺	120(29)	72	120	120	112				544
7	坂巻	120(106)	120	90	104	89				523
8	松尾	120(49)	120	23	120	120				503
9	松岡	120(56)	92	88	120	75				495
10	小林	120(46)	120	87	76	90				493
11	鈴木	99	105	107	66					377
12	大桃	73	56	44	6					179

* G、F1H

ほとんど風が無くグライダーにとっては不吉な予感。これが当たりで、競技開始時にはあまりに風がないのでサークリングに体力があるので不安が一杯です。又、年寄りの引っぱるグライダーはテンションがかからず離脱出来なくて、絶好の無風を恨む始末。人間は勝手なものですね・・・。

上位は予想通りと言っては何ですが、元気さで1位・和田、2位・白井両選手にやられました。若ければ勝てる大会にはしないように、老人同盟は次回から頑張ります。吉岡選手は無風の朝一に、ゴルフ場方向に走っても走っても離脱出来ず、とうとうゴルフ場に着いてしまいアテンプト、70才の脚力に関心しました。しかし頑張った成果はありで3位は立派、しかも、すでにエレキ装備の新型F1Hを入手の由、お金持ちはイナ。

ランチャーズからは小堀、櫛引、井沢、大矢、大八木、宮辺、平尾とグライダー参加者の過半を占めたが、誰も賞にはとどかず惜しい。宮辺選手は自作機がどうやら言う事を聞くようになって4位と頑張った。大八木選手の中国生まれのG級・「鶴ちゃん」は出だし順調だったが、途中からチョロチョロ落として5位、一発1離脱の小堀選手は初回ドジッタものの残りはオールマックスは惜しいが6位。同じく一発離脱の櫛引選手は初回の失敗が後を引いて残念でした。井沢選手は機体調整中に機体破損で5回目は飛ばせず、大矢選手は機体の故障で、3ラウンド目、走りつても走っても機体が離脱出来ず途中棄権、平尾は初回の発航がおかしくなって、耐久力不安で調子をくずし没、とそれぞれ残念でした。みんな、2月の寒中杯で頑張ろう。

今回の参加機はカーボン機が6人、バルサ機が4人でした。バルサ機では大八木選手のG級「鶴ちゃん」が翼面荷重が少ない事もあってなかなか良く、ドシラなければ優勝かと思いました。宮辺選手の自作機も競技直前の調整でどうやらサキが見えてきて、次回は上位をねらえるのでは・・・。

今回も会運営の為とは言え、湘南勢が参加しないのは淋しい。もっとも、昔からと比べると弱くなったと思うが、まだまだ遊べると思うが・・・。

G、F1H

No.	氏名	R1	R2	R3	R4	R5			Fo1	Fo2	合計
1	和田	120(120)	120	120	120	120					720
2	白井	120(18)	120	120	120	120					618
3	吉岡	118	120	120	120	120					598
4	宮辺	120(12)	110	120	120	120					590
5	大八木	120(61)	111	113	120	106					570
6	小堀	66	120	120	120	120					546
7	平尾	63	79	44	104	120					410
8	櫛引	0	120	65	91	77					353
9	井沢	120(44)	63	52	88						323

10	大 矢	120(91)	118	0	0	0						238
----	-----	---------	-----	---	---	---	--	--	--	--	--	-----

* F1J

最近、エンジンは参加者が減少気味で、ギリギリの3人のみ。大宮田んぼでは、値段の高い機体が壊れるからと言うのは、情けなくないか……。大宮田んぼ用のフロートでもはかせて飛ばしても、3分はいくでしょうに。ハーフウェイのグルグル回転上昇が懐かしい。

F1J

NO	氏 名	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5		F1	F2		合計
1	金 川	120(118)	120	120	120	120					718
2	本 永	120(74)	120	120	120	120					674
3	江 連	120(32)	120	120	120	120					632

* HLG

今回は関西の鷺見選手、名古屋の伊東選手が遠征してきて面白くなりそうな予感。この日の朝は寒かったので、第1ラウンド90秒のコンディション作りが鍵でした。

皆んな来たばかりは、全員メロンがちらついて、イソイソとしていたが、競技開始後しばらくして行くと、シラケ鳥がヒラヒラと……。何か早々と決まった感じ……。

予想通り初回のスーパーマックス90秒が勝負の別れ目となって、名古屋の伊東選手の76秒が最高、その後も好調維持して圧勝しました。伊東選手は高度も昔にもどって高い、さらに機体も良くなって、人間はともかく、機体はどうやら出来上がって来たみたいで、まずいぜ……。ソロソロ叩いておかにゃ……。

関東は沢山いるのに、たったひとりの名古屋にやられどうするねん。最近、ひと頃の凄みが無くなったように思うが、関東の老雄・春山選手が2位、競技人としては人間まだまだ丸くなるのは早いでっせ。3位には復調なった関流・井村選手でした。脂っこい関西弁がボタバタヒーヒー落ちて重くなったのでは。

年寄りがガンバル翼端投げのハッパが効いてか、4位以下の関東勢の高度は素晴らしい。但し、力だけでは飛ばないのがHLGでうまくはまると、どんなボロ機でも優勝の可能性があるところがハンドランチの醍醐味です。

関西の鷺見選手は大分機体を大型化、軽量化しているようで、苦心のあとが見える。しかし、ただニコニコしてる様では勝てん。名古屋みたいに、欲にヒズンだニコニコにならないと……。

それにしても、290秒以上が6人、最下位が229秒と言うのは立派なもの。やはり、大宮田んぼは何でも良く飛ぶ場所です。

HLG 1、2Rは90秒、2R以降は60秒マックスで10投中の5投の成績

No.	氏 名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	合計
1	伊 東	76	53	60	60	59	60	60				316
2	春 山	60	63	60	60	60	40	60				303
3	井 村	61	55	47	60	60	60	46	60			301
4	石 山	55	47	60	60	60	39	60				295
5	菅 野	54	34	53	26	60	60	60	44	60		294
6	野 中	50	60	35	39	35	60	42	60	50	60	290
7	吉 田	22	42	57	60	32	29	45	60	40	33	264
8	木 口	42	52	56	46	46	43	44	44	60	39	260
9	石井満	53	18	60	42	58	42	27	42	44	41	257
10	寺 田	42	19	30	38	60	28	30	47	60	32	247
11	鷺 見	37	38	04	42	55	34	46	40	29	48	229

* 紙HLG

今回の大会から紙のHLG競技が追加されました。参加者は少なかったものの、今後参加者増加が見込まれます。紙も大型化して性能も上がってきています。しかし、この日は難しかったようで記録は延びませんでした。順調に実力者の石山選手が優勝、2位に吉田選手でした。上位2人はバルサとの掛け持ち。平林兄弟は不調だったようです。次回は沢山タクサン参加して欲しい。

紙HLG

No.	氏名	1R	2R	3R	4R	5R	6R	7R	8R	9R	10R	合計
1	石山	37	38	45	60	31	38	51	31	47	36	241
2	吉田	43	36	49	36	16	23	03	05	05	25	176
3	平林助	07	24	08	46	31	18	26	08	05	16	145
4	平林幸	31	19	11	28	26	32	23	11	19	21	140

* ライトプレーン

このクラスも今年は参加者が少なく4名。その内3名は古狸選手の奥様で、ライトプレーンを使っての国際級選手の代理戦争です。でも各選手の亭主がセッセとライトプレーンを作って、正月に勝ちに来るのも大変ですかね。

いざ競技で奥様の発航がまずかった場合の発言に、ご亭主の家庭での地位がかいま見える。余りにもすごい事を言う亭主には、奥様を気遣って計時の人がオドオドする事すらある。ここだけ見ていると、ヒーローキ屋はけっこう亭主関白の様に見えるが、それはこの時だけで、帰ると「ハイ、ハイ」とお米を研いだりして……。亭主・ガンバレ

でも頑張ったのは奥様方で、参加者中唯一人の男・和田選手は最下位。これはわざと？又は未必の故意？、それとも勝ったりすると何言われるか解らないからから、元々戦意が無かったのか……。

ライトプレーン

NO	氏名	R 1	R 2	R 3	R 4	R 5		F1			合計
1	梅原陽子	60	60	60	60	60		91			391
2	櫛引恵子	60	90	60	60	60		84			384
3.	岩田和子	60	60	60	60	60		74			374
4	和田光信	60	57	60	60	60					297

お知らせ

● きしめん大会 (中部春季競技会)

- 主催 中部フリーフライトクラブ
- 開催日時 平成18年2月26日午前8:30から
- 場所 三重県鈴鹿市池田町タンボ (地図はCFFC ホームページ鈴鹿会場参照)
- 種目 HLG,F1J,E,小型機混合級
- 競技方法 E/F1J級 (2分max・5ラウンド)、HLG級 (1分max・10ラウンドの上位5ラウンド)

小型混合級 (1分max・3ラウンド) ※小型混合級は、スパン30インチ以下・ゴム重量10g以下の機体なら何でもOKです

- 参加費 2,000円、2種目エントリーする方は+1,000円、ただし中学生以下は無料)
- その他
 - ①競技中の事故等については参加者ご自身で対応してください。
 - ②天候等の理由により、ラウンド数を変更することがあります。
 - ③鈴鹿タンボは田植え1ヶ月前です。できる限りタンボを踏み荒らさないよう
 - ④作業中の農家の方には、こちらから挨拶してください。

● 平成18年度関西フリーフライト国際級競技大会案内

- 日時 3月11日(土)受付、宿舎、午後3時~6時、機体仕様書提出、3月12日(日)現地午前7時集合、競技午前8時~12時50分、決勝午後2時、終了午後3時予定。
- 宿舎 休暇村近江八幡(西館) 523-0801 滋賀県近江八幡市沖島宮ヶ浜
Tel:0748-32-3138 Fax:0748-32-8650 <http://www.qkamura.or.jp>

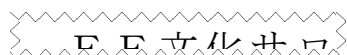
3. 会 場 滋賀県神崎郡能登川町(3月から東近江市)大中北地区田んぼ、
 4. 種 目 F1A、F1B、F1C
 4. 競 技 競技は3分MAX5回。但し気象状況により変更あり。
 5. 資 格 JMAの模型飛行士登録または損害賠償保険加入のこと。
 6. 会 費 11000円。夕食は宿舎、朝食と昼食は現地給食、同伴者は8500円です。(個室希望は別途相談)
 7. 申 込 み 2月15日締切厳守。参加種目記載のうえ、必ず郵便のこと。
〒5900012 大阪府堺市浅香山町2-4-13-205村上 善信宛
参加申込者に機体仕様書を発送。大会受付に提出のこと
 8. 注 意 他 車は南北水路沿い農道東側1列駐車、ゴミは各自持帰り、競技中第三者への損害は各自責任処理、田んぼへの立入りは最短距離にて、トイレは大中神社、水車公園、味菜村即売場にあります。
 9. 主 催 関西フリーフライトクラブ連合会

● 選手会・大宮大会

1. 主 催 東京模型飛行機選手会
 2. 場 所 大宮タンボ
 3. 種 目 HLG,F1G,F1J,G,R,E,A 級ライトプレーン, HLGはA, B, に区別致します。
 4. 日 時 3月19日 受付開始7:30、競技開始8:30、1R終了9:30、競技終了; 11:30
 5. 競技方法 FAI規定F1G、H、J、2分MAX(1ラウンドのみ3分MAX)5R、HLG-A, B(MA Xは当日決定)、ライトプレーン、A級市販キット限定(折りペラ不可)
 1分MAX5R、 F1Jエンジンランは4秒
 6. 参加費 1種目2,000円2種目以降+1,000円(学割50%)申込みは当日会場にて
 7. 表 彰 各種目1、2、3位にお米(券)その他各賞有り
 8. 問合せ先 東京模型飛行機選手会事務局

● 新潟国際級F1ABC競技会(予定)

1. 主 催 JMA・FF委員会
 2. 場 所 新潟県新潟市白根タンボ
 3. 種 目 フリーフライト・F1A、F1B、F1C
 4. 日 時 4月8(土)、9日(日)
 5. 参加費 予定・選手1種目14,000円、宿泊しない選手9,000円
 7. 申込み期限 3月20日消印有効
 8. 問合せ先 JMA・FF委員会、詳細は未定



■ 木引敬一さんの思い出

高田 富造

桃高のことから始めねば

KFCの創立総会が開かれたのが1956年の春でした。故・平田徳次郎さんの奥さんの方の店の2階に集まりました。なにもわからない中学生だった私と丸山卓くんが召集されていました。私たちの世代は、疎開跡や野原に集まるやんちゃ坊主の集合体で、校区も学年も違うものがライトプレーン遊びで結合した、いわばよき時代の腕白集団でした。故・谷藤年男さんや岩村慧一さんが兄貴分で指導者でした。ウェークフィールドやエンジン機などがあることを教わったものです。

私は訳があって1960年から12年ほど姿を隠しました。二宮賞大会に再デビューしたのが1972年だったかな。G級で2位。ところがKFCはがらりと若い勢力が元気いっぱいでした。それが木引敬一さんら、桃山高校模型部の集団でした。白野次朗さんなどがその仲間でした。私たち第1世代が自然発生的な徒弟制度みたいな集団だったのに対して、この桃高集団は組織された集団でありきちんと理論を突き詰めていた集団でした。零戦の職工とロッキードの機械やぐらいの差がありましようか。

その中で抜きん出ているのが木引敬一さんでした。世界を目標にして確実に段階を踏む情熱というより冷徹な意志の持ち主の登場でした。日本選手権ではA、B、Cの三冠王であります。二宮賞と日本選手権のF1Cの優勝回数は朝青龍も顔なしのものすごさ。世界選手権にはF1Bにも参加しています。F1Cへの変更

は岩村さんの勧誘が功を奏したらしいです。ここにKFCは、①機関誌を軸に、②世界を目指す、という基本姿勢が確固たるものになりました。

アッシーくん20年かな

いちばんの思い出といえば、木引敬一さんの「アッシーくん」を続けたことかもしれません。初めて逢ったところは練習といえば京都市伏見区の巨椋干拓地田んぼでした。彼もホンダのバイクの荷台にガン箱を縦にくくりつけてやってきました。私も川崎W1 S650ccでドコドコでした。やがて練習場が滋賀県神崎郡能登川町の大中田んぼに変わると私も人並みの生活ができるようになっていたので三菱ミラージュを購入し機動力アップ。木引さんは車を買いません。車を買うならエンジンと機体と遠征費用と考えていたのかどうか分かりません。高給取りなのにね。以来、毎週のような彼の練習に自動的にセットされてしまいました。1979年アメリカ・タフトでの世界選手権F1C2位の頃から20世紀末にニューヨーク勤務になるまで。彼は阪急南茨木駅、私は阪急長岡天神駅、うまくトランジットできる仕掛けになっていました。この時代は家族から言わせれば「いつもお父さんがいない家」だった。本当によく練習しましたね。それでいて私がかうまくならないのはなんでかな。

みんなが大中に行くときはもちろん、誰も行かない真冬でも「明日いくでえ」と電話がかかるのです。「ほんなら長岡天神6時やな」。竜王ICを下りたら雪の世界。チェーンを巻いてトコトコと田んぼへ。農道も田んぼもわからへん。雪の塊に乗り上げて「亀」になったり恐々いつもの場所へ。ふかふか、さらさらの新雪。機体がデサマ降下したら潜り込んでしまう。軽いF1Bでも翼端と垂直尾翼の先だけ見えている。はよ、やめよな。でも彼はやめない。

機体を追いかけて走っていったら、いきなり目の周りが雪ばかり。排水溝に落ちた。立ち上がった壁は手がかりがない。オオオ、助けてくれ！」と叫ぶが返事はない。なんとか上がって車の中で裸になって衣服を乾かしたもんだ。

根性はすごい。暑くても、寒くても、風があっても。朝から夕方まで。かなわんのは、人の近くでも「じょじょじょじょおー」。それでいて他人には「大は水洗（排水溝）にせえ」という。

KFCで二人三脚

KFCは岩村一平体制で創業し、小野一北村体制で近代化（法人化かな）しました。実務は桃高ががんばりました。桃高の社会人化、小野先生のお年とあいまって、KFCが一時危機に晒されたときがありました。そのときイニシアチブを發揮したのが、木引さんでした。岩村さん、小野さん、平田さんが顧問におさまり、会長を木引さん、私が副会長という体制になりました。木引さんがニューヨークに行く際に私が会長代行になりました。その後、KFCがKFC通信の発行を停止し、活動をペースダウンさせたことはご存知のことなので触れません。

私もめっちゃめちゃ忙しい時代でしたが、KFC通信の編集も引き受けていました。ガリ版刷りから簡易オフセット、さらに完全外注（製本まで）と合理化したのも、彼の指導力の賜物でした。元気があれば原稿は集まる。いつもこなしきれない原稿の山でした。榎引敬司さんのサークルリングフックの連載など思い出深いです。機関誌はチャレンジ的な技術を解明していく武器でした。金川茂さんの世界の名人のお宅訪問の連載も楽しかった。

木引さんのイニシアチブで進んだのは、二宮賞などの運営の合理化でした。アメリカのマックスメンの事例で、相互計時とか宿泊、食事なしとか始めました。うまくいかなくて元に戻すものもありましたが、とにかく保守的で前例を繰り返す運営に渴を与えてくれる指導力がありました。

思い出の日中友好大会

1986年9月、天津で開かれた第1届日中友好模型航空大会に参加できたことは忘れられません。その前、1979年に木引さんはF1Cで2位になり、毎度の練習で特別自信をもって参加したと思います。ところが、ものすごいショックがありました。F1Cはバントです。まっすぐ上昇しダウンで滑空に移行する。こちらはラダーを切って、やおら起き上がる。F1BはVISが当たり前。垂直に上昇し到達高度がまるで違う。こちからはVISなし。VISは知っていても、ノンVISで負けないという自負がありました。小堀三夫さんらの到達した極地なら負けないと思っていました。でも世界でVIS装備に勝てるのはボブ・ホワイトだけになっていたのです。F1Aはサークルリングが当たり前。じっと風をにらんでいて、来たと思ったら高射砲部隊のように打ち出す、外れたら終わり。あちらは悠々とサークルリングしていた。熊井さんが優勝できたのは奇跡でありました。F3Bはやはりバント離脱で急上昇していました。

帰国したら猛烈な勉強が始まりました。さいわい、1979年にアメリカで天津航空運動学校教練の郭浩洲さんと出会っていました。文化大革命で僻地に下放され分散していた選手たちが黄永良さんら幹部の努力で救出され、チームを再建し、再び世界に出てきた大会でした。彼らはソ連から先進技術を学んでいました。

私たちは、まずこの中国人から学ぶことにしました。

ソ連はまだ鉄のカーテンの時代で直接のコンタクトは不可能でした。北朝鮮もソ連も世界大会では硬い表情でわれらに接触しなかったのです。

郭浩洲先生、陶象乾先生らは中国のなかでも特異な存在でした。平気で私たちに接触してきました。技術的な質問を絵入りで質問すると長文の回答がありました。VISの微妙な感覚も教わりました。なによりありがたかったのは中国から実物が入手できたことです。浅田君が広州からF1Cを抱いて帰ってきたのが最初でした。構造、仕掛け、それが実物で分かったのです。この頃、墜落したら嬉々として構造を調べたものです。高いのにね。F1A、F1Bでも実物の効果はすばらしかった。第3回大会では飯田君が郭さんから直接に曳航と離脱のコツを伝授されました。

また、私と木引さんは相談して、二宮賞30回記念大会に中国選手団を招待し、実際に全国の仲間と彼らの技を見ることにしました。KFCの蓄えと彼らの持参した機材の売り上げで賄う計画でした。

現物を見た効果はやはり凄かった。その後の日本の進歩はご存知の通りです。でもこのときの赤字は長く我が家の家計に響きましたが。天津の町でバスに乗り木引さんとうろついたことは思い出に残っています。彼と模型以外の行動をしたのは初めてでした。

あくまで世界へ

彼の遺志といえ、日本の選手たちが世界で活躍することでしょう。経済的にも豊かになりました。若い選手でも世界に出る条件は揃っています。問題は、既成勢力が若い人の獲得と養成に目を向けるかどうかです。ベテラン選手はいつまでも現役を張り続けるとともに、持てる機材と技術を若い方に分かち与えてください。金川さんがF1Cで優勝され世界チャンピオンになられたことは、木引さんがいちばん喜んでいましたことでしょう。

追悼文になったかどうか、湿っぽい話はいやなので、いきあたりばったり。木引さん、小西さん、坂井さん、谷藤さん、平田さん、内山さん、そのうち試合しましょうや。

■ 小型ゴム動力機用電動ワインダーの製作

.....平尾

① 前説

仙人（自宅専任）になってから1年余、やや時間に余裕が出来てきたので、近所の公園でどんなヒコーキを飛ばすかを考えていた。これまでにHLG、PLG、小型ライトプレーン、スケール機等試してみた結果、骨ガラみみたいな飛行性能追求型のヒコーキは殺風景な野原や畑で飛ばす物で、美しく整備された公園には似合わないと思う様になった。そこで姿かたちの整った、且つ、飛ぶ姿勢も美しい小型スケール機をはじめの事に決めた。しかし、私は手が不器用なのでカタチにこだわるのではなく、本物っぽい雰囲気、いかに綺麗に飛ばすかに挑戦しようと思う。そこでまず最初に頭に浮かんだのは「ピーナッツ・スケール」である。さっそく2機ほど作ってみたが結構難しい。又、スパン30.5センチと小さいのでデサ装置が積めず近所の周りに立木が沢山ある公園では回収不能になる確率が高い。さらに、このジャンルはすでに多数のプロがいるので、後発のヨイヨイが始めたところで恥をかくだけだと考え、他の飛行機を検討する事にした。

そこで、やや大き目の「ウォールナッツ・スケール」に注目したが、これには理由がある。1つはスパン46cmと言う大きさが作る上で私にはほどよい事。2つ目はこのサイズだと無理なくデサ装置が積める事。3つ目はこの大きさだと結構飛ぶので競技会でも勝負になる事、4つ目は胴体・翼がバラせるので持運びが便利な事（ピーナッツスケールはバラせないのかさばる）。5つ目は、そこそこ大きいので公園でも構目立って宣伝になる事等々。

ようやく、やるべき模型ヒコーキが決まったので、まずは手持ちのキットと、手元にどんな資料があるかの確認した。現在の手持ちはキットがおおよそ10種類と、図面が30種類程である。そこでまずは取り組みやすいキット作りから始める事にした。しかし、いざ作ってみると競技機製作と異なる要素が多々ある事がわかった。スケール機は基本的なカタチがあるので、それに合わせると飛行目的の小型模型飛行機には不適な部分が結構ある事。飛行性能にわざわざ複雑で太い胴体と車輪、やたらと小さい垂直水平尾翼、それにやたらと少ない上反角等々を考えると果たして飛ぶのかと迷ってしまう。また、スケールの場合、仕上がが難しい。いかに本物っぽくみせるかが問題である。小型機は軽量化が必須でパテ盛りして塗装でごまかすと重くなる。どう素材を生かして、それらしく美しく作るかは個々の美的感覚が問われて、挑戦のし甲斐があるとさえ言えよう。例えば、きれいな骨組みに、白紙張りで色彩はマークのみの透ける様なスピットファイアーが飛ぶ姿はそれなりに美しい。また、古い複葉機のモデルは少量のゴムを積んで飛ばすと、昔らしくヨタヨタと飛んでたまらなくイイ。幾つか作って「ウォールナッツ・スケール」は自分にあったジャンルだと確信した。

現在の我が空軍勢力は、ピーナツター 2機、エンブリオー 1機、ウォールナツター 2機の計 5機しかない。且つ、まだ出来てから間がないので機体が安定してなくて、飛ばすごとに調整が必要である。しかし、30秒程度は飛ぶ様になった。さて、ここで問題発生である。

実際にやってみるとスケール屋がなぜ電動ゴム巻き機をみんなが持っているのかが解った。実際にスケール機を飛ばしてみると 1/5 のワインダーでは巻き数 (1,000~1,500 回) が多くてうんざりする事が解った。そこで、ようやく電動ワインダーや、10:1 のワインダーの必要性が理解出来た。そこで市販の電動ワインダーの購入を考え調べてみると、カウンターがすぐ壊れると言う。

② いやいやながらの電動ゴム巻機・1の製作について

やむなく自作する事にして、まず、手持ちの使いそうな小物を調べて、自作ワインダーの構想を練る事にした。使いそうな物として、壊れたメタルギアーのワインダー、ギアモーター、回数カウンター等机の上に並べてダラダラと思案にすること 2週間。様々な組み合わせを考えているうちに、金属ギアー使用の高回転ワインダーを作るよりも電動ワインダーの方が作り易いようなので、こちらを作る事に決めた。やるべき事が決まると、後は一気に成にチャンチャンである。

問題点として①モーターのサイズとパワー (巻く速度と何条まで巻くか)、②電池の容量、③電動ワインダーの大きさ (置型、携帯用) 等々。考えた末、①ラジコン電動プレーン用の 1/5 ギアモーター (7.2 ボルト用) を採用する、②電池は単 2 を 2 本 (3V で使用) 採用する、③カウンターはテープレコーダーの機械式を採用、④形は携帯用とする事に決定した。

あとは作りながら考え考え、2日で作出来上がった。完成した電動ワインダーは外形 200mm×40mm×35mm、カウンター部分 65mm×50mm×30mm、重量 280g (電池込み)、外装・木製クリヤーラッカー仕上げ、仕様は回転数 20回/秒、カウンター表示は 1/15 (表示数字 1 = 15回転) となった。このままだと、巻き数が解りにくいので、上部に検算表を貼り付けた。このワインダーを使って 3.2mm×2条のゴムを約 800回巻くのに約 1分かかる。また、巧いぐわいにトルクに応じて巻く速度が少しづつ落ちてくるので、ゴムの巻きかげんが良く解ってぐわいが良い。

今回の製作で最も苦勞したのは、カウンター表示である。カウンターは 100円ショップの指で押す回数カウンターと、手持ちにテープレコーダー用の機械式カウンターがあったので、それぞれに様々な伝達方法を検討した。結果はテープレコーダー用が正確で使いやすいのでこちらを使う事に決定した。しかし、モーターの回転をどうやってカウンターに伝えるかが問題で、何回もテストをした。結局、モーターの回転をカウンターに伝達するのにワームギアーを 2ヶも使ったのでギア比が読めない。そこで完成してから実際にゴムを巻いて巻戻し回転数を数えて、実際の巻数とカウンター表示の比率を確認した。以上、全てあり合わせの材料により、勘で決まった数字である。やりたかった事とは多少の差違があるが、これで十分使いそうなので満足している。

↓図説・3ヶの蓋、電池ケース、スイッチ、モーター、回転端子、カウンター



③ 誰にも出来る電動ゴム巻機・2の製作

②で紹介した電動ゴム巻き機は、肝心のゴム巻機の部分はともかくとして、カウンターが特殊なので、誰にでも手に入るカウンターを使った電動ゴム巻機を紹介する。

③-1 動力部品とゴムフック

動力部はタミヤのテクニカルシリーズ NO. 2 「ハイスピードギアボックス HE」 890円を使う。このキットはモーター付きで、ギアも大型でしっかりしているし、ギア比が 6種類選べて便利である。モーターは 260タイプで電源は 3ボルトである。このモーターの方が 7.2ボルト用のモーターを 3ボルトで回すより力

がある。ギヤボックスの外形寸法は、巾28ミリ、高さ52ミリ、長さ47ミリ、動力取出用シャフトは長さ80ミリ、重量は54グラムである。今回はギヤ比を18:1で使うことにした。この時のトルク234g・cmとなっている。電池を単3にして小型化しても、たかが知れているので単2を2本を使う事にした。この方がはるかに長持ちする(半年は持つ)。

動力の取り出しは、シャフト(径3.8ミリ)にネジ(径2.8ミリ)が切っただけなので、袋ナット(様々なサイズがあるパイプ状の長いナット)を使ってフックを取り付けた。フックは2.5ミリのピアノ線を曲げ加工しダイスでネジを切った。但し回転方向がネジがほどける方向なので、取付けた後瞬間等で外れないように工夫する必要がある。又は、袋ナットに横穴を開けてネジで固定する。

袋ナットが手に入らない場合、又は2.5ミリピアノ線の加工が面倒な場合は、内径3ミリの真鍮パイプ等を使ってシャフトとフックをハンダ付けする。それも嫌な人は、カーボンパイプを使ってエポキシで接着する方法がある。但し、ゴム巻き中にフックが抜けないように工夫する事。これで捲くゴムが2条程度なのでもこれでも大丈夫である。この辺りはそれぞれ考えて欲しい。

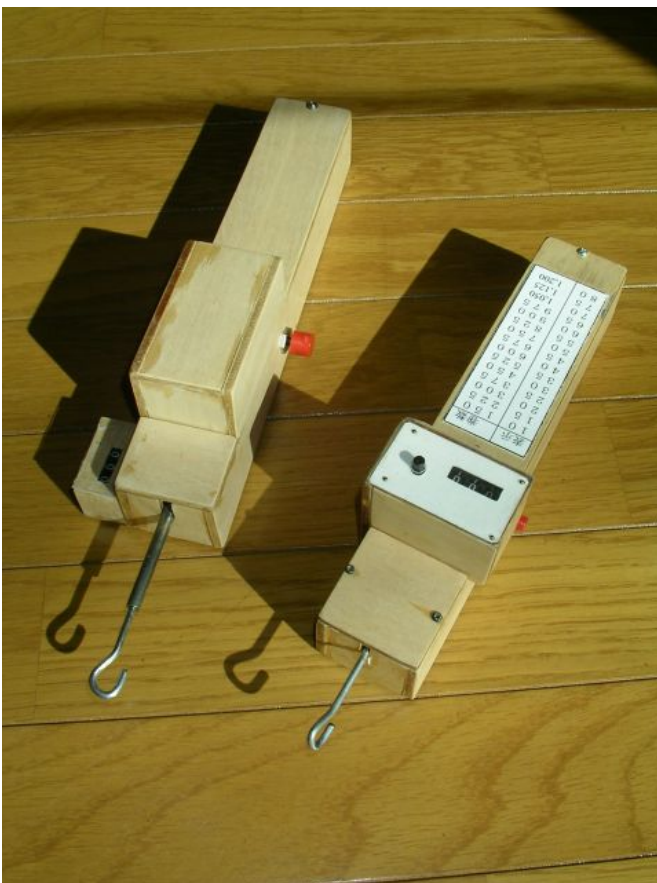
③-2 電池ボックス



↓図説・ゴム巻き機、左2号機、右1号機

今回は品ベニヤ厚4ミリを加工して作った。この方がネジが効くし丈夫である。もし、簡単に作りたいのであれば、ハードバルサ厚3ミリを使ってボックスを作る方法もある。しかし電極やギヤボックスをネジ止めする部分は1ミリベニヤを接着して補強する事。電極の部品はプラスチック製の電池ボックス(単2用)を買ってきて、電極の部分のみ切り外して板にネジ止めする。配線は電極のマイナス側を電池ボックスとモーター直結とする。プラス側は2極式の円形プッシュスイッチ(押し時のみ通電する)を経由してモーターにつなぐ。このスイッチはラジコン屋等で150円で売っているが、似たような物があれば何でも使える。スイッチの取付位置は電池ボックスとギヤモーターの間で、ワインダーを持って押しやすい位置に付ける事。

←図説・モーター、回転端子とカウンターレバー



③-3 カウンター部分の製作

今回は100円ショップのカウンターを使う。指でカチャカチャとレバーを押すタイプである。カウントするのに、今回はメカの改造無しでギヤモーター軸に取り付けた、楕円形の回転体で駆動レバーを叩く方法にした。テストしたが高速回転でも相当に正確である。この楕円形回転体はプラスチック製のラジコン用サーボモーター用のプラスチック十字型部品を切断して使う。これが手に入らない場合はアルミ、プラスチック板から切り出す事。この部品はギヤと袋ナットの間に取り付けた。購入したカウンターのケースは加工が難しいのと、取付が困難なので使用しなかった。その代わりに新たに1ミリ航空ベニヤと2ミリハードバルサでケースを製作した。カウンターはこのケースに裏からビス(プラスチック板厚ギリギリのサイズとすること)止めし、ケースごと電池ボックスの底にビスで直付けした。カウンターボックスの取付けたあと、回転端子が上手くレバーを叩くように、ギヤモーターの位置をビスで調整する。壊れた場合は交換する必要があるので、ケースとメカは接着しない事。

③-4 ゴム巻き機のケース

ケース本体は品ベニヤで製作し、電池、スイッチとモーターを収納する。面倒だが電池交換、モーターの点検、カウンター調整の為に上面カバーが外せる様に

作る。今回ケースは手持ちの品ベニヤ4ミリ×30ミリの板を使った。頑丈すぎる気がするが壊れにくい事が重要である。実用性を重んじて瞬間接着剤を使用し、ケースの体裁にはこだわらなかった。ケースがほぼ完成した時点で内外部ともクリヤーラッカー、又はドープを2、3回塗っておく事。

③-4 ゴム巻き機のケース

ケース本体は品ベニヤで製作し、電池、スイッチとモーターを収納する。面倒だが電池交換、モーターの点検、カウンター調整の為に上面カバーが外せる様に作る。今回ケースは手持ちの品ベニヤ4ミリ×30ミリの板を使った。頑丈すぎる気がするが壊れにくい事が重要である。実用性を重んじて瞬間接着剤を使用し、ケースの体裁にはこだわらなかった。ケースがほぼ完成した時点で内外部ともクリヤーラッカー、又はドープを2、3回塗っておく事。

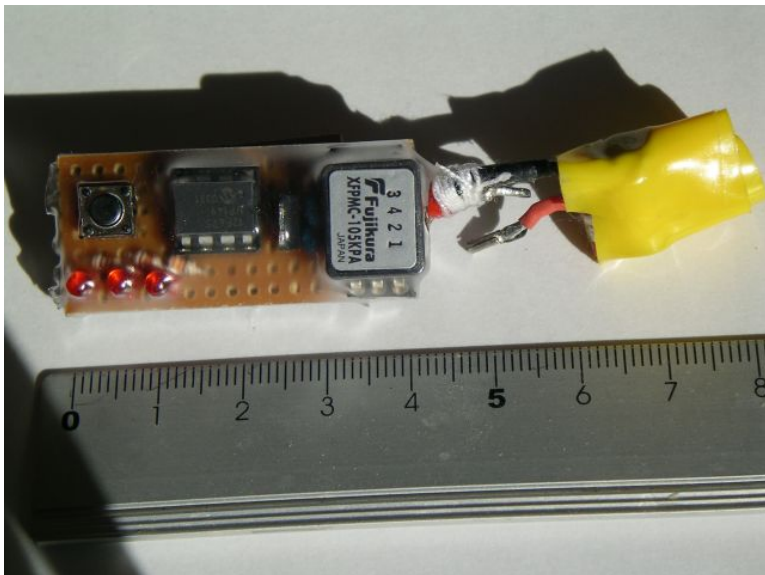
③-5 完成した電動ワインダー2号は外形220mm×40mm×38mm、モーター部分66mm×25mm×38mm、カウンター部分22mm×34mm×19mm、重量280g（電池込み）、外装・木製クリヤーラッカー仕上げ、仕様は回転数9.4回/秒、カウンター表示は1/1となった。このワインダーを使って3.2mm×2条のゴムは1分で560回巻ける。以上、電動ワインダーの製作は言葉のみでは解りにくいので、写真を添付した（図面別添）。

■ UHLGをめぐる考察（2）

平尾・・・⑩

1. UHLG・高度計の改良と機体への取付け

高度計を入手してから半年も過ぎてどうやらやる気になって、機体に高度計をどう搭載するかを考えました。まずは、高度計の電池の軽量化と簡便に搭載方法の検討です。使用した電池は100円ショップで販売している酸化銀電池SR626（2個で100円）で、1個の大きさは2.5ミリ×6.8ミリφ、重量は0.4グラムで、これを5個使用（1.55ボルト×5=7.75ボルト>7ボルト、OK）するので電池の全重量は2グラムとなります。高度計の重さが8.6グラムと電池2グラムで10.6グラム。これまで電池を積層してハンダ付けして使用していたが、不便なのでガラスパイプを使って電池ケースを作り電池交換が出来るようにした。



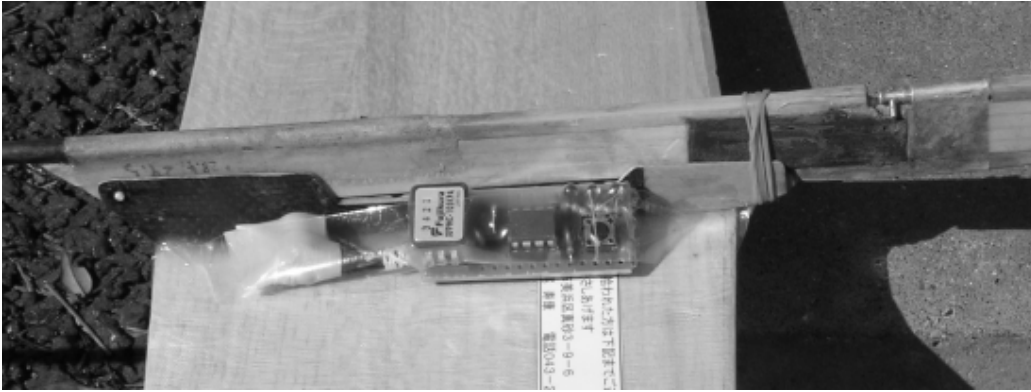
←図説・左高度計、右電池

電池ケースだが、まず内径7ミリのガラスパイプを長さ15ミリに切断して、両電極に6ミリφの真鍮メッキワッシャに被覆銅ヨリ線をハンダ付けし、6ミリφに切断したゴムシートを瞬間接着剤で付けた。そして片方はガラスパイプに固定し、他方は電池の出入用に可動式にした。このケースは電池を入れた後ビニールテープで固定する様にした。これで予備電池を持っていれば交換が可能となった。又、本体からコネクタを外し、スイッチ代わりにアナログレコード再生用のカートリッジ用コネクタを片チャンネル使ってスイッチ兼用とし、もう片チャンネルは線をハンダ接続で常に導通状態とした。結果して重量は10.7グラムになった。次に、機体への取付け方法は、様々検討した結果

最も軽量で安易な粘着テープによる取り付けとした。機体への取付け位置は、翼端投げで外れないように、振り回す時の胴の内側にしました。

2. 高度計の測定について

高度測定に使用する機体の大きさはスパン80センチ、翼面積約8dcm²、機体重量約80グラムである。この機体に高度計を搭載すると機体重量は10グラム増加するので、翼面荷重は10gから11.5g/dm²に増加する。この機体でテストする場合は石井満グラフによると高度は約2メートル高く上がる筈である。但し、抵抗も増えるので、この辺りは高度を実際に測ってみて検討する事とした。テストは今回間に合わず次回)



←図説・翼左下面の高度計

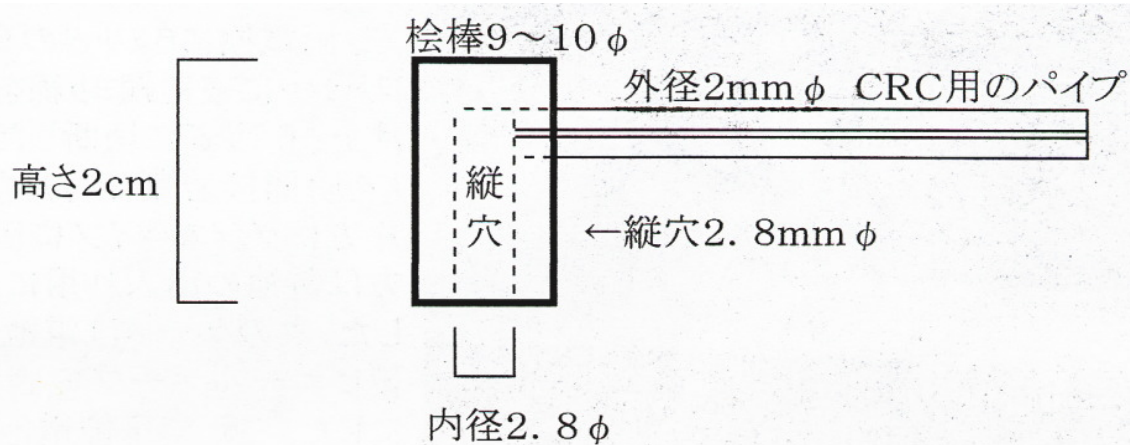
■ FF用べんり小物の作り方

1. 小型エアードスターの作り方

田んぼでタイマーが不調になった時に掃除用エアードスターが欲しい時がママあります。ところが市販のエアードスターは結構デカイので、野原には持っていきにくいのです。そこで小型のエアードスターがあれば便利だと思い100円ショップの「自転車充填空気」を使って作ってみました。

100円ショップにあるのは、サイズが35mmφ×130mmで容量は65mlの物です。しかし、この製品は吹出口を直に自転車タイヤの空気入口に押し込む方式の為、このままでは使えません。試しにCRC等の横吹き方式のパーツをテストしましたが、2.8mmの吹き出しパイプとはサイズが合いません。そこで以下のパーツを作りました。

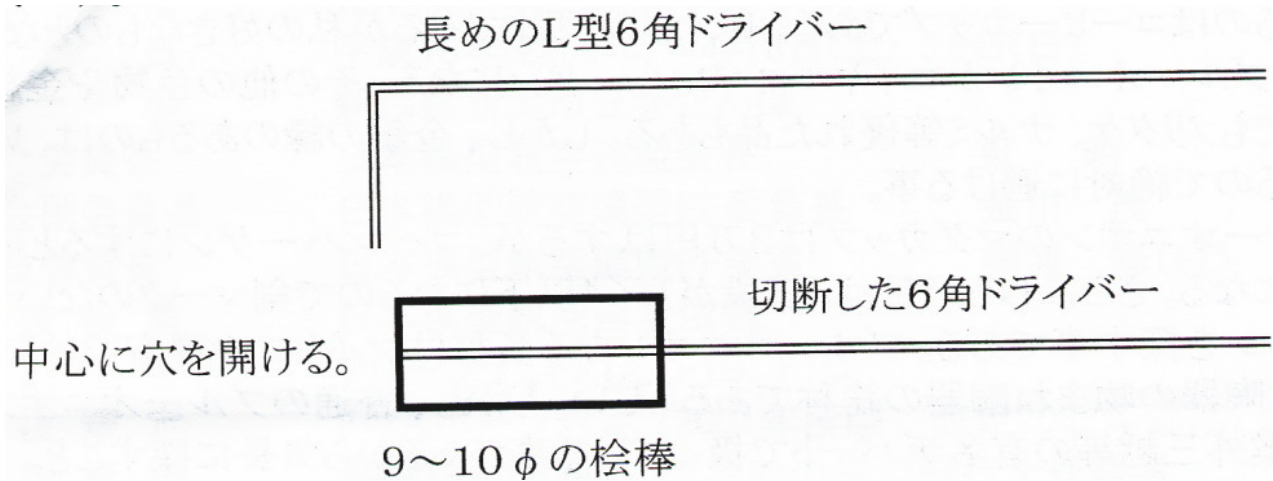
直径9～10mmφの桧棒を長さ2cm程度に切断して、その円の中心に天辺の部分3mm程度残すようにして、縦に2.8mmφの穴をドリルで開けてます。次に穴の天辺付近を狙って、横に2mmφの穴を開けて穴をつなげます。次に、2mmφの穴に、CRC用の吹き出しパイプを丁寧に押し込みます。このパーツが出来たら、これを「自転車充填空気」の吹出口に差し込んで完成です。テストしてみると吹き出しにあまり勢いがありませんが使えるそうです。これだと小型ですので、ガン箱に入れておけます。思ったよりエアが弱いですが使えます。



2. 六角ドライバーの製作

昔は様々なサイズの柄の付いた六角ドライバーを売っていましたが、最近買いに行ったら2mm以下の物は何処の店にもありません。これを何に使うのかというと、出口製のモントリオール用キャラメルにゴムを入れる時1.5mmの六角ドライバーが必要なのです。L型の1.5mmの六角ドライバーを使えば良いのですが、これだとクルクルと回すには不便なので、L型の長めの六角ドライバーを使って柄付きを自作しました。

まずは、ドライバーの柄に使う9～10mmφの桧棒を20～50mmの長さに切断して紙ヤスリでバリを取ります。次にその材の中心に1.5mmφの穴を貫通するまで開けます。穴を開けるには、丸棒を万力で挟んで曲尺等でドリルの歯が垂直に入るように芯を出します。ところが、これがナカナカの難問です。うまく穴が空いたら、そこに長めのL型の曲がりの処から切断した六角ドライバーを押し込んで通して瞬間で接着してます。その後、なくさないように柄の部分に派手な色(赤等)を塗りれば完成です。



◆ 雑談天国

◆ 1. 暖房衣類の紹介

平尾・・・⑩

今年は特別寒い冬です。そこで文明の利器（電気ヒーター付き）を使った暖房衣類のご紹介をします。インターネットで検索しても、ニュースで報道されているよりはヒットが少なく、今回ご紹介出来るのは以下の2件のみでした。年を取るとこの様な品々が欲しくなるのでは・・・。

1. ぽかぽか・ヒーティング手袋 価格5,250円～10,290円

インターネットで販売しています。上記の名称で検索して下さい。

仕様	1. 重さ	約260g
	2. 素材	外装・防水性ナイロン素材、内装・ポリエステル、色はグレー基調
	3. サイズ	19-22cm, 20-21cm, 22-24cm,
	4. 熱源	カーボンファイバーヒーター、
	5. 電源	左右各単3乾電池3個、スイッチ付き、2段切替
	6. 保証期間	1年間
	7. その他	発熱継続時間は不明、ヒーターだけ外して洗えるようです。

2. ぬくぬくベスト 価格4,980～9,800円

インターネットで販売しています。上記の名称で検索して下さい。

仕様	1. 重さ	570g（電池を含む）
	2. 素材	表地、裏地、中綿、全てポリエステル
	3. サイズ色	男女兼用、S、M、L 茶、ベージュ
	4. 温熱温度	32～40度にて自動調整（背中のみ）
	5. 電源	リチウム充電電池（3.7V2000mA）（内ポケットに内蔵）
	6. 充電時間	4時間、充電器付き
	7. 発熱時間	3時間、予備電池1ヶ付き（この場合は最大7時間）
	8. その他	洗濯はドライクリーニングのみ

◆ 2. 朝食の準備

ヒコーキを飛ばしに行った日は、早く飛ばそうと思って朝食がせわしないので嫌いだ。せめて朝食くらい、のんびりと取りたいと思う。だから、競技が終わって翌日のゆっくり起きての朝食はまた格別である。まず朝食の準備は自分がやる。前回、一日の食事の中で朝食が一番好きと書いたが、それは自分で準備が出来るからである。

コーヒーのマグカップ、白磁のバン皿、ヨーグルトのガラスカップ、果物用ガラス皿、ナイフ、フォーク、スプーン、自家製ヨーグルト、ジャムの瓶、バター、チーズ、蜂蜜と並べて、お花替わりに、早春にはろう梅、秋には金色の金木犀の花を浮かべたガラスカップが香る。朝、何ものっていない器を並べるのはきれいで気持ちの良いものである。さらにキザに決めると、ここで流れる曲はバッハのフリュートソナタ「シンリアーノ」といきたいところだが、いつもはFMのクラシックアワーである。

こう書くとすごく綺麗なイメージだが、実際は周りにサプリメントの瓶や本、雑誌、筆立て等がガサツに置かれている楕円のテーブルである。

私が、なかでもこだわるのはコーヒーカップである。ピンからキリまであるが私の好きなものとなると白地に紺の模様のもの、ブルーオニオンかロイヤルコペンハーゲンになる。その他の色物や金縁はもっての他である。国産でもノリタケ、ナルミ等優れた品もある。しかし、金銀の縁のあるものは、いずれ剥げてみずばらしくなるので絶対に避ける事。

ドイツ・マイセンのブルーオニオンのマグカップは2万円はするが、コペンハーゲンにすると形は今一つだが半分の値段になる。さらにねらい目は、値段が1/4以下になるので剣マークのないマイセン以外のブルーオニオンを探す事である。ブルーオニオンなる名称はマイセンの専有ではなく、似た様なデザインの日本陶器の物まね陶器の総称であるらしい。しかし、普通のブルーオニオンはなかなか見つからない。案外三越等の有名デパートで扱っている事があるから気長に探すこと。

余談であるが、なぜブルーオニオン（青いタマネギ）という変な名前なのか。その理由は、ヨーロッパで陶器が作れなかった昔に、日本から輸出用の有田伊万里の陶器に菊を描いていたのである。しかし、当時のヨーロッパ人は菊を知らなかったので、菊の花をタマネギだと勘違いしてオニオンになったと言うのが定説である。

また、どちらがオリジナルか微妙だが日本製でブルーダニューブと言う陶器がある。デザインもそっくりで一目ブルーオニオンで、固くて優れた陶器である。一般の品よりはやや高いが飽きがこないお買い得品である。これもなかなか見付けにくい品である。

さて、さらに余談の余談だが、以前の職場で接客用にコーヒーを入れて出したブルーダニューブのセットを見て、老夫婦が目丸くして、じっと見ていた事があった。は、はあー、間違っただけと解ったので「これはブルーオニオンではありませんよ」と言うと、ご夫婦はカップを手に持って確認して「高価なマイセンのセットが出てきたのかとビックリした」と言っていた。そのおかげか、後はうちとけて話がはずんだ。後で聞くと、最近このご夫婦はヨーロッパ旅行で、思い入れがある高価なマイセンのセットを買って帰ったばかりとの事であった。

さて、話をもどして、器がそろそろ後は女房の散歩や花への水やりのタイミングをみてコーヒーを入れて、まず最初にコーヒーの味を見る。インスタントコーヒーとの、もっとも大きな差は香りである。こればかりはドリップコーヒーの芳醇な香りにはかなわない。残念ながらコーヒーの味は毎朝違う。

最近一つ解ったことは、お湯はけっして沸騰させてはいけないということである。てきめん、コーヒーの味がおちる。コーヒーが入るとキツネ色にパンを焼き、バターを塗って溶けるのを待つ。この瞬間がもっともほっとする時間である。コーヒーを飲みながら一日の予定を立てる。と言っても大してやることは無いので、迷うとすれば何時に飛行機を飛ばしに行くかぐらいか。

田んぼでも朝食を楽しもうと思って、ドリップコーヒーを持ってはいくが、ほとんど使わない。香りが良くて、インスタントコーヒーより旨いのだが、ヒコーキがまわりを飛んでいると、どうも気が散ってダメなのである。やっぱり、コーヒーよりヒコーキの方が良いのかな・・・。

▼ 編集後記

⑪

昨年と違って今年は27年ぶりの寒い冬です。1月も風が吹いてヒコーキが飛ばせない日が続いている。風の日には機体製作と言っても、そうそう毎日作るモノがある訳ではないので、何かやる事を考えねばならない。まず、頭に浮かぶのはCAD、しかしこれがおっくうである。次は、電子楽器、ピアノ、ギター、オカリナ、ケーナ。しかし、ヒコーキなんてものがあるので、これもナカナカに始まらない。囲碁将棋は出来ないし、早く飛ばせるような天気になって欲しい。

最近加齢からドンドン身体が変わってくるのが解る。近所にいる出口さんは、昔は冬でもランニング、素足にサンダルでペタペタと歩いていたが、最近は防寒靴にヒーター付き手袋愛用という。丈夫さでバケモノだった前田さんも、最近は「バイクは寒い」などと人間みたいな事を言い始めた。又、女子高校生の丸出しのブットイ大根足を見ると、寒そうで背中がゾクツとする。今年からズボン下も履き出したし、下着も靴下も分厚いのに変えた。昔はゴム動力機にはヒーターが許されていたのに、今はダメなどと時代に逆行していないか。

主催 日本模型航空連盟
 期日 平成 18 年(2006 年) 4 月 8 日(土)、9 日(日)
 会場 新潟県新潟市笠巻たんぼ
 大会委員長 日本模型航空連盟会長 東 昭
 大会副委員長 日本模型航空連盟 FF 委員長 金川 茂
 競技委員長 日本模型航空連盟 FF 委員 細海 修 (仮)
 競技役員 日本模型航空連盟依嘱
 競技種目 フリーフライト F1A, F1B, F1C
 競技規定 FAI スポーツ規定 (2001 年度版 改定 2002 年運用) 準拠
 参加資格 平成 18 年(2006 年)度有効の模型飛行士登録者
 競技の方法 7 ラウンド競技であるが気象等の状況により全飛行を行わない場合もある。
 また状況によっては中止することもある。
 参加費 選手 14,000 円、宿泊しない選手 9,000 円、宿泊する
 同伴者 8,500 円
 申込受理後は本計画の中止以外は理由の如何にかかわらず返還しない。
 損害賠償 人畜、土地、建物その他に対し損害を与えた場合は当該者がすべてその債務
 を負う。
 機体検査 適時行う。
 参加申し込み 参加申込書に必要事項を記入の上、住所、氏名を記入した返信用封筒に切手
 を貼り参加費を添えて現金書留にて下記に送付のこと。
 送り先未定・後日ランチャーズポームページ参照)
 申込締切り 平成 18 年(2006)年 3 月 17 日 (金) 当日消印有効
 申込受理 確実に申込を行った選手には申込受理書と機体仕様書を送る。機体仕様書に
 必要事項を記入の上、競技前に大会受付へ提出のこと。
 宿 泊 地元ホテル
 競技開始時刻 9 日 07:00 (日の出 05:20、日の入り 18:15)
 そ の 他 1. 選手は計時員の補助として計時を行い、競技運営に協力して下さい。
 2. 競技当日 (9 日) の食事は各自で用意すること。
 3. 問い合わせは各団体の FF 委員または FF 委員長 金川 茂
 電話 0476-28-4108 skane@nctv.co.jp へ

切取線

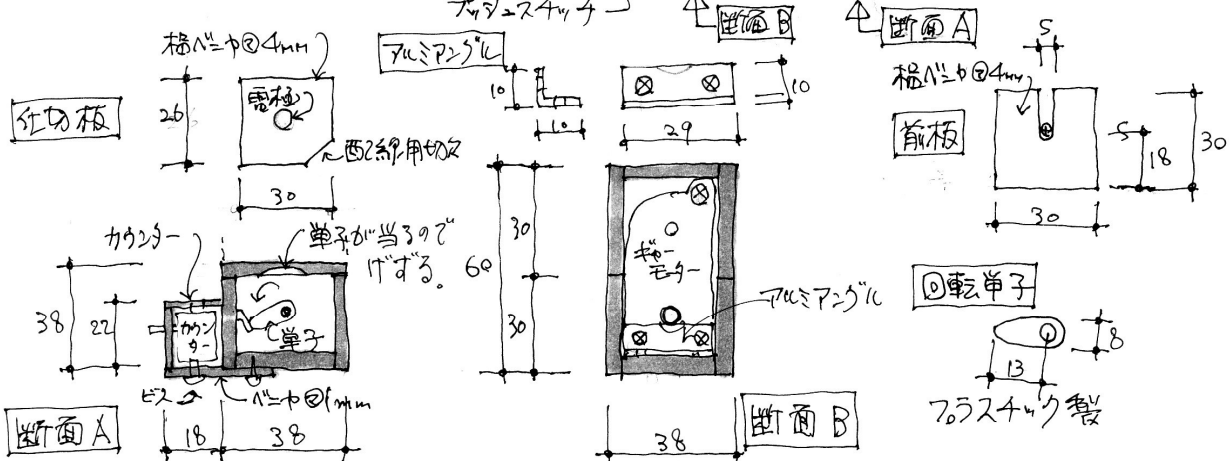
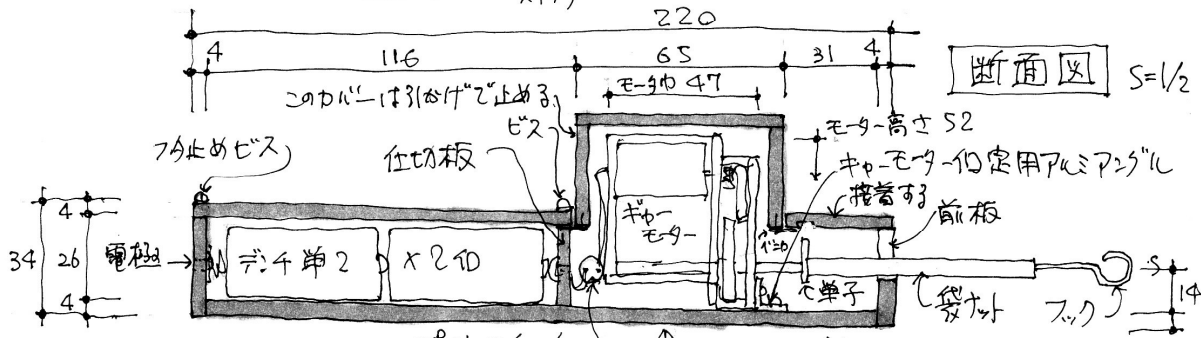
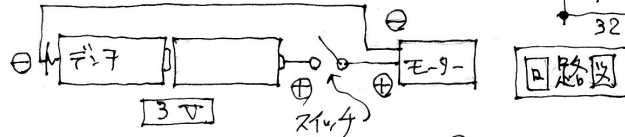
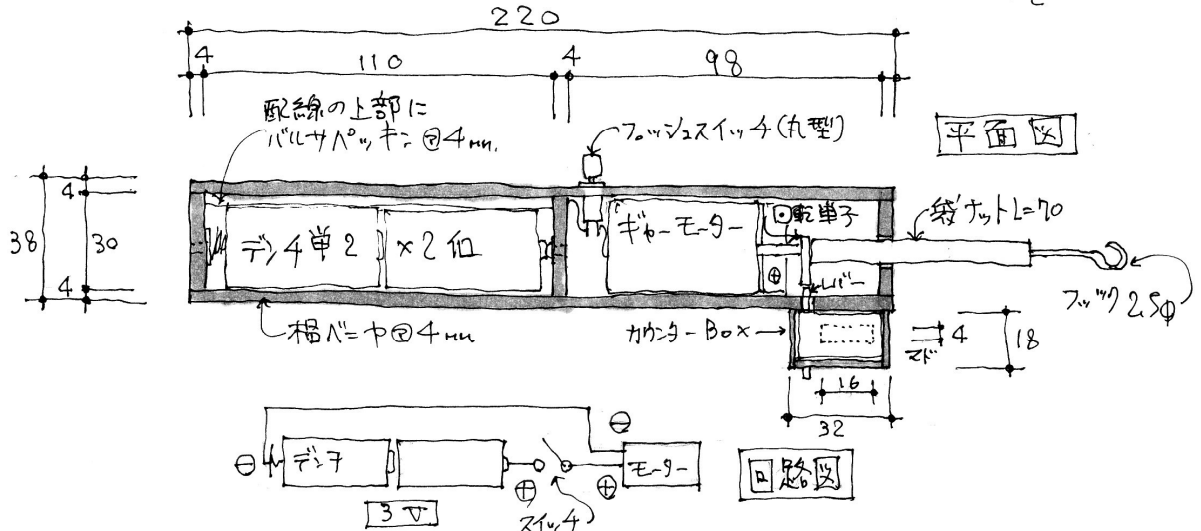
平成 18 年度模型航空フリーフライト国際級競技会 ・ 参 加 申 込 書

種 目	F1A, F1B, F1 C	氏 名			登録番号
住 所	〒			宿 泊	要 不要
電 話			メールNO		
選手参加費	¥	同伴者宿泊費	¥	合計	¥
				同伴者氏名	

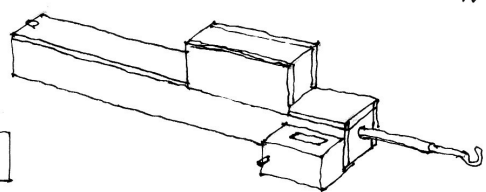
小型DC動力機用電動ワイナー

2006.2. by H.Hikido

S=1/2



重量 280g (電池込み)
 使用電圧 3ボルト



使用部品
 ミニ-111 回転子 Box HE 890円
 カウンター 100円 2.5φ 7.00円
 スイッチ RC用 150円
 電池 Box 1 増極
 回転数 560回/分
 1φ - 3.2mm x 4条 巻き付き

